

平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年2月8日

上場会社名 新京成電鉄株式会社 上場取引所 東証一部
 コード番号 9014 URL <http://www.shinkeisei.co.jp/>
 代表者 代表取締役社長 片岡遼一 TEL : (047) 389-1124
 問合せ先責任者 財務戦略部主計課長 塚越啓彦

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績 (平成19年4月1日～平成19年12月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	14,992	△2.3	2,088	△15.9	1,794	△21.5	1,007	△24.6
19年3月期第3四半期	15,349	1.8	2,482	8.2	2,285	15.7	1,337	26.5
(参考) 19年3月期	20,245		2,509		2,298		1,291	

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第3四半期		18.31		—
19年3月期第3四半期		24.29		—
(参考) 19年3月期		23.46		—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
20年3月期第3四半期	57,458		21,810		38.0		396.31	
19年3月期第3四半期	54,952		21,573		39.3		391.95	
(参考) 19年3月期	58,764		21,658		36.9		393.51	

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金					
	中間期末		期末		年間	
	円	銭	円	銭	円	銭
19年3月期	2	50	3	50	6	00
20年3月期	2	50	—	—	—	—
20年3月期（予想）	—	—	2	50	5	00

3. 平成20年3月期の連結業績予想（平成19年4月1日～平成20年3月31日）【参考】

第3四半期の業績は予定通り推移しており、平成19年11月13日に公表しました業績予想の見直しは行っておりません。
（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	19,943	△1.5	2,382	△5.1	2,076	△9.7	1,024	△20.7	—	18.61

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無
 (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
 (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期のわが国経済は、原油価格の高騰など先行きの不透明感はあるものの、個人消費が底堅く推移するとともに、民間設備投資の増加基調や雇用情勢の改善傾向など、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のもとで、当社グループは積極的な営業活動を行うとともに経営基盤の強化並びに効率化に努めましたものの、営業収益は14,992百万円（前年同期比2.3%減 356百万円）、営業利益は2,088百万円（同15.9%減 394百万円）、経常利益は1,794百万円（同21.5%減 490百万円）、四半期純利益は1,007百万円（同24.6%減 329百万円）となりました。

これを事業のセグメントごとに示すと次のとおりであります。

運輸業

鉄道事業では、松戸新田駅において多機能トイレを設置するとともにスロープを整備いたしましたほか、くぬぎ山駅、新津田沼駅のエレベーター設置工事及び多機能トイレ設置工事をすすめました。このほか、車両2編成に車椅子スペース及び車内文字案内装置を設置するなど、諸施設のバリアフリー化に積極的に取り組みました。

旅客サービスにかかる一層の向上策といたしましては、輸送の効率化及び接続する他社線との乗り継ぎの改善を図るため12月2日にダイヤ修正を実施いたしました。また、松戸新田駅上りホームに新たに改札口を設置するとともに、みのり台駅ほか7駅の改札機をICカード乗車券「PASMO」対応型に代替いたしました。このほか、高齢者やお身体の不自由なお客様が駅施設を快適にご利用いただけるよう駅係員の「サービス介助士」資格取得を引き続き推進いたしましたのをはじめ、さらなる接客サービスの向上を図るため外部講師による駅係員の接客向上研修を継続実施するとともに、「京成グループBMK（ベストマナー向上）推進運動」にも積極的に取り組みました。

安全輸送確保の取り組みといたしましては、車両5編成の戸閉保安装置更新工事、初富7号踏切道及び前原5号踏切道の踏切支障報知装置新設工事、八柱1号踏切道ほか4踏切道の踏切遮断機更新工事、八柱1号踏切道及び八柱2号踏切道の特殊信号発光機のLED（発光ダイオード）化工事、くぬぎ山駅構内及び前原駅構内の電車線支持物改良工事などを行いました。このほか、11月1日から気象庁の緊急地震速報を活用した「早期地震警報システム」を導入し、安全面の向上を図りました。

また、沿線における少子高齢化の進展により旅客需要の減少が見込まれることを踏まえ、12月1日から松戸新田駅及び前原駅に録画機能付監視カメラ等による「遠隔監視システム」を導入し、駅業務の効率化を図りました。これに伴い、一部時間帯において駅係員を無配置といたしました。

鎌ヶ谷市内の連続立体交差化工事につきましては、引き続き完成に向けて工事をすすめております。

営業面につきましては、沿線周辺の行楽施設や催事を紹介するポスターを駅及び車内に掲出いたしましたほか、「第24回全国都市緑化ふなばしフェア」の開催にあわせ、開催を周知するラッピング電車を運行するとともに、松戸駅ほか6駅に横断幕を、三咲駅にフラワーボックスをそれぞれ設置するなど旅客誘致並びに増収に努めました。

自動車事業の一般乗合輸送においては、高齢者や車椅子を使用されるお客様に配慮し大型ノンステップバス2両及び大型ワンステップバス22両を代替いたしましたほか、新規路線の開設に伴い中型ノンステップバス2両及び大型ワンステップバス3両を増車いたしました。また、平成20年度に導入を予定しているICカード乗車券「PASMO」への対応として、全車両の運賃箱を代替いたしました。

旅客サービスにかかる一層の向上策といたしましては、接客サービスの向上を図るため外部講師による研修を引き続き実施いたしましたのをはじめ、社外モニターのご意見を活かして新型マイクを導入し、案内放送の充実を図りましたほか、「京成グループBMK（ベストマナー向上）推進運動」にも積極的に取り組みました。

また、お客様の利便性の向上を図るため、船橋新京成バス株式会社では11月3日からパークサイド鎌ヶ谷線（鎌ヶ谷駅～パークサイド鎌ヶ谷循環）、12月16日から新鎌ヶ谷線（鎌ヶ谷大仏～鎌ヶ谷総合病院）の運行をそれぞれ開始いたしました。このほか、同社の芝山線を東葉高速線飯山満駅まで路線延長いたしましたのをはじめ、金杉台線の医療センター～北谷津川間に停留所を新設し、旅客誘致並びに増収に努めました。さらに、同社の西白井線、鎌ヶ谷グリーンハイツ線については接続する鉄道のダイヤ改正に対応するため、また、鎌ヶ谷線については輸送の効率化を図るため、それぞれダイヤ改正を行いました。

営業面につきましては、新京成グループバス3社において高齢者のお客様の利用促進を図るため「プラチナパス」「プラチナ65」「プラチナ60」「ダイヤモンドパス」を発売いたしましたほか、学生のお客様の利用促進を図るため、「BUS通楽（つうがく）」並びに京成グループのバス各社も利用できる小学生限定の「こどもんごころパス」を発売いたしました。このほか、船橋新京成バス株式会社及び習志野新京成バス株式会社においては、近距離のお客様の利用促進を図るため100円（ワンコイン）運賃を引き続き実施いたしました。

貸切輸送及び特定輸送においては、新たに小型車両1両を増車いたしましたのはじめ、船橋新京成バス株式会社では、「第24回全国都市緑化ふなばしフェア」の開催にあわせ、北習志野駅～アンデルセン公園間のシャトルバスの運行を船橋市から受注いたしましたほか、習志野新京成バス株式会社では新たに企業の従業員輸送を受注いたしました。また、松戸新京成バス株式会社においても学校法人和洋学園の通学輸送を追加受注し安定収入の確保に努めました。

以上の結果、営業収益は12,023百万円（前年同期比1.0%増 117百万円）となりましたものの、営業利益はICカード乗車券「PASMO」関連の投資に伴う減価償却費が増加いたしましたこともあり1,182百万円（同8.8%減 114百万円）となりました。

なお、船橋バス株式会社は、旅客の減少に伴う運輸収入の減少に歯止めがかからず、今後の事業継続が困難であるため、一般乗合旅客自動車運送事業を廃止し、船橋新京成バス株式会社が船橋バス株式会社の乗合路線を引き継ぐとともに、当社に船橋バス株式会社が所有する資産を集中させて効率的な運用を図ることを目的に、平成19年10月1日をもって船橋バス株式会社を当社に吸収合併いたしました。

不動産業

不動産分譲業では、千葉市緑区おゆみ野南土地の第2期分2区画を販売いたしましたほか、船橋市金堀町土地など21,821㎡を売却いたしました。なお、千葉市緑区おゆみ野南土地につきましては第1期分を含め35区画を完売いたしました。

不動産賃貸業では、北習志野駅前の商業ビル建設に向け平成20年度の竣工を目的に設計業務等の諸準備をすすめました。

また、改修工事をすすめておりました津田沼14番街ビルにつきましては、11月9日に関東では初めてとなる「ユニクロ」をキーテナントとした新しい商業施設「ミーナ津田沼」としてオープンいたしました。

このほか、賃貸施設の保全工事として、津田沼12番街ビル（イトーヨーカドー津田沼店）の空調設備更新工事、新津田沼駐車場ビルの照明設備更新工事、五香駅東口ビルの施設改修工事などを行いました。

以上の結果、営業収益は分譲土地の販売が減少いたしましたこともあり2,181百万円（前年同期比16.4%減 426百万円）、営業利益は850百万円（同26.0%減 298百万円）となりました。

その他の事業

駅売店業につきましては、パスネット販売の廃止及び新聞・雑誌販売の減少傾向など、厳しい経営環境の中にはありますが、新たに八柱駅第2ビル内ほか2施設に携帯電話方式によるコインロッカーシステム「クロスキューブ」を設置するなど増収に努めました。

以上の結果、営業収益は新京成車輛工業株式会社が平成18年7月に連結子会社から除外されましたこともあり890百万円（前年同期比13.5%減 138百万円）、営業利益は29百万円（同103.5%増 14百万円）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の資産につきましては、建設仮勘定の増加等がありましたものの、投資有価証券や現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末に比べ1,305百万円（前期比2.2%減）減少し、57,458百万円となりました。

負債につきましては、前受金の増加等がありましたものの、未払金や買掛金の減少等により、前連結会計年度末に比べ1,457百万円（前期比3.9%減）減少し、35,648百万円となりました。

純資産につきましては、その他有価証券評価差額金の減少等がありましたものの、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度に比べ152百万円（0.7%増）増加し、21,810百万円となりました。

3. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

該当事項はありません。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

科目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第3四半期末)	増減		(参考) 前期末 (平成19年3月期末)
	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)	増減率 (%)	金額 (千円)
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び預金	2,638,138	2,834,067	195,928		3,406,243
2. 売掛金	516,792	676,226	159,433		531,683
3. たな卸資産	3,339,559	3,273,854	△65,704		3,331,286
4. 繰延税金資産	320,114	209,706	△110,407		498,226
5. その他	228,810	285,014	56,203		369,192
流動資産合計	7,043,415	7,278,869	235,454	3.3	8,136,631
II 固定資産					
1. 有形固定資産					
(1) 建物及び構築物	19,703,795	20,113,997	410,202		20,434,715
(2) 機械装置及び運搬具	5,105,610	5,556,768	451,157		5,745,865
(3) 土地	9,585,625	9,480,628	△104,997		9,480,628
(4) 建設仮勘定	7,134,247	8,273,708	1,139,461		7,452,897
(5) その他	454,179	1,244,317	790,138		1,060,426
有形固定資産合計	41,983,459	44,669,421	2,685,961	6.4	44,174,533
2. 無形固定資産	300,538	397,091	96,552	32.1	540,335
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	4,935,556	4,301,903	△633,653		5,224,010
(2) 繰延税金資産	22,537	209,156	186,618		26,796
(3) その他	666,965	602,505	△64,459		661,787
投資その他の資産合計	5,625,059	5,113,566	△511,493	△9.1	5,912,595
固定資産合計	47,909,056	50,180,078	2,271,021	4.7	50,627,463
資産合計	54,952,472	57,458,948	2,506,475	4.6	58,764,095

科目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第3四半期末)	増減		(参考) 前期末 (平成19年3月期末)
	金額(千円)	金額(千円)	金額 (千円)	増減率 (%)	金額(千円)
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 買掛金	707,222	708,913	1,691		1,290,180
2. 短期借入金	4,404,420	4,419,270	14,850		4,431,370
3. 未払金	715,291	1,179,340	464,048		2,735,069
4. 未払法人税等	161,082	114,292	△46,790		339,264
5. 前受金	6,016,454	6,956,780	940,326		6,016,454
6. 賞与引当金	180,428	174,583	△5,844		525,897
7. 役員賞与引当金	25,800	19,350	△6,450		34,750
8. その他	2,522,737	2,603,363	80,625		2,401,274
流動負債合計	14,733,436	16,175,894	1,442,457	9.8	17,774,261
II 固定負債					
1. 長期借入金	13,130,011	14,080,741	950,729		13,951,076
2. 繰延税金負債	164,513	—	△164,513		194,722
3. 退職給付引当金	2,723,768	2,822,028	98,259		2,795,454
4. その他	2,627,036	2,569,745	△57,291		2,390,373
固定負債合計	18,645,331	19,472,515	827,184	4.4	19,331,627
負債合計	33,378,768	35,648,409	2,269,641	6.8	37,105,889
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金	5,935,940	5,935,940	—	—	5,935,940
2. 資本剰余金	4,775,250	4,775,244	△5	△0.0	4,775,250
3. 利益剰余金	9,042,975	9,675,134	632,158	7.0	8,997,431
4. 自己株式	△29,548	△32,667	△3,119	△10.6	△30,757
株主資本合計	19,724,618	20,353,651	629,032	3.2	19,677,865
II 評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金	1,849,085	1,456,887	△392,198	△21.2	1,980,340
評価・換算差額等合計	1,849,085	1,456,887	△392,198	△21.2	1,980,340
純資産合計	21,573,703	21,810,538	236,834	1.1	21,658,206
負債純資産合計	54,952,472	57,458,948	2,506,475	4.6	58,764,095

(2) 四半期連結損益計算書

科目	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	当四半期 (平成20年3月期 第3四半期)	増減		(参考) 前期 (平成19年3月期)
	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)	増減率 (%)	金額 (千円)
I 営業収益	15,349,134	14,992,877	△356,256	△2.3	20,245,783
II 営業費	12,866,165	12,904,158	37,993	0.3	17,736,222
1. 運輸業等営業費及び 売上原価	11,880,171	11,975,712	95,541	0.8	16,433,663
2. 販売費及び一般管 理費	985,994	928,446	△57,548	△5.8	1,302,558
営業利益	2,482,968	2,088,718	△394,249	△15.9	2,509,560
III 営業外収益	145,447	71,797	△73,650	△50.6	239,337
1. 受取利息及び配当 金	25,121	44,826	19,705	78.4	27,749
2. その他	120,325	26,970	△93,355	△77.6	211,588
IV 営業外費用	342,884	365,911	23,026	6.7	449,948
1. 支払利息	332,318	320,048	△12,270	△3.7	436,347
2. その他	10,565	45,862	35,297	334.1	13,600
経常利益	2,285,531	1,794,604	△490,926	△21.5	2,298,950
V 特別利益	109,366	—	△109,366	△100.0	355,315
VI 特別損失	197,987	27,747	△170,240	△86.0	551,093
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	2,196,910	1,766,857	△430,052	△19.6	2,103,171
法人税、住民税及び事 業税	616,945	494,741	△122,203	△19.8	810,236
法人税等調整額	242,784	264,186	21,402	8.8	1,297
四半期(当期) 純利益	1,337,181	1,007,929	△329,251	△24.6	1,291,637

(3) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前年同四半期 (平成19年3月期第3四半期)

	運輸業 (千円)	不動産業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
営業収益						
(1) 外部顧客に対する営業収益	11,902,301	2,563,835	882,997	15,349,134	—	15,349,134
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	3,670	43,956	146,496	194,122	(194,122)	—
計	11,905,971	2,607,791	1,029,493	15,543,256	(194,122)	15,349,134
営業費用	10,609,424	1,458,427	1,015,117	13,082,968	(216,802)	12,866,165
営業利益	1,296,547	1,149,364	14,376	2,460,288	(△22,680)	2,482,968

当四半期 (平成20年3月期第3四半期)

	運輸業 (千円)	不動産業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
営業収益						
(1) 外部顧客に対する営業収益	12,022,941	2,141,757	828,178	14,992,877	—	14,992,877
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	540	39,283	62,559	102,383	(102,383)	—
計	12,023,481	2,181,041	890,738	15,095,261	(102,383)	14,992,877
営業費用	10,841,200	1,330,341	861,488	13,033,029	(128,870)	12,904,158
営業利益	1,182,280	850,699	29,250	2,062,231	(△26,487)	2,088,718

(参考) 前期 (平成19年3月期)

	運輸業 (千円)	不動産業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
営業収益						
(1) 外部顧客に対する営業収益	15,755,661	3,319,700	1,170,421	20,245,783	—	20,245,783
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	3,850	56,925	169,465	230,242	(230,242)	—
計	15,759,511	3,376,626	1,339,887	20,476,025	(230,242)	20,245,783
営業費用	14,565,658	2,113,957	1,317,610	17,997,227	(261,005)	17,736,222
営業利益	1,193,852	1,262,668	22,276	2,478,797	(△30,763)	2,509,560